よみましょ・みましょう

▼ねずみの駆除にしても蚊と同様農業関係と連絡をとりあって、野ねずみとともに駆除すべきだろう。

▼環境衛生をよくするためには組織の力が一番大切だ。よい部落は下部組織がかっちりしており、市と綿密な連絡をとりあい美しく整備されている。

▼下部組織を強化するためには衛生委員のみでなく、各地区に衛生組合をつくり、市は衛生委員や組合の指導者を指導し、環境衛生の時期、方法、技術面などについて話し合いをもち、より密接な連絡をとりあい、環境衛生の充実をはかるようにしてはどうだろう。

▼実験的に一つの部落に重点を置き、徹底的にやらせる方法も考えてもよい。大津の例のように一人の指導者がいなくなってもじゃんとならないよう、より多くの指導者作りが、住みよい町づくりへの第一歩だ。

▼つまり経費でもなく、指導者の養成が必要というわけだネ。文化は進んでゆくにつれて、川に流されるゴミ類の多いのはどうもいただきかねる。やはり市民の精神面の向上につとめることが一番だ。

司会　市民の保健については、まだまだあると思いますが、これで終りたいと思います。

組織と指導者をつくれ

隨想リレー

昭和十二年社会に第一歩を踏み出して以来足掛二十八年間、職時中の後期を除いて比較的平凡に暮してきた私には特筆すべきことがらもない。元来筆無精の私には作文は大の苦手であるが、今度レー随想のバトンタッチを受けて締切りも間近となり、かつ原稿の督促もあることゆえやむなく拙文の恥をさらすことになった。

私の筆無精は天性のものであり作文の無能さとともにわれながら愛想のつきる思である。日々の職務を通じて必要な書類、特に請願陳情文の作成に至っては正に身の細る思いである。私的交際においても同様必要やむを得ない手紙でもいざ書くとなると、日頃馴染の官庁用語が飛出し内容的に情感が湧いてこない。一日たち、二日延びるうちに遂に時期を失い、礼を失することたびたびである。従って私は機会ある毎に日頃の筆無精を詫び、理由を説明して了解を得ることに努めている。よって親戚知己双方の通信は吉凶何れかのものであり、四季の挨拶などおよそ縁遠いものである。

筆と私とお酒

近年官庁においては虚礼廃止の声が大きく、筆無精の私には正に福音ともいうべきことである。しかしながら長年親しみ、かつ馴染んできた風習は一朝一夕にして廃れそうにもなく、むしろ平和に明け暮れる今日、お互に近況を語りともに生きていることの喜びを分ち合うことの美風として、自然に行なわれるものなれば大いに結構であろうと考える。

ともあれ私の筆無精は作文の無能に起因し、公私の如何を問わず私の生きている限り続くように思われる。また、生きている限り私から切ってもの切れないのは酒である。庁内で酒豪の話が出れば十指の中に数えられているようであるが、私自身[redacted]が強いと思っている[redacted]要領[redacted]、酔わない程度に飲んでいる[redacted]きない、酒はたしかに好きである、けれども酒豪の域には遥かに遠い。私達の生活は公務員という名において時間に追われ、時間に束縛された市民への奉仕の生活であり、一日八時間は肉体的労働は少いにしても一見気楽そうに見えて実は精神的苦痛が非常に大きい。退庁時のベルとともに解放感がどっと押し寄せなにかしらほっとした安らぎを覚えるのは私一人ではないと思う。

私達の一日の中で最も自由で解放された時間といえば、この退庁時よりわが家に辿りつく時間である。私達はこの時間を有効に使うことになる。一の疲労を快復し明日への英気を養う時間でもある。スタンドで飲む一杯の酒はそれが解放された後だけになんともいえない楽しさがある、一日のすべての出来ごとを持ちより同好の士と汲み交す杯、そこには泣き笑いの人生がありそれはまた、腹を割った人間同志のつかの間の享楽でもある。だから私は誘もするし、誘われてよく、一人でもなお、結構気が向けば時間と、体力と、家庭の経済の許す範囲内において飲むことにしている。度が過ぎれば経済的破綻を生じまた、二日酔という肉体的苦痛を味わうことになる。

よって私はなるべく適量で引きあげることにしているが、時と場合によっては意気統合し、思わぬ不覚をとることもある。げに心して味わうべきは酒である。

さて次きなる方へのバトンは選管事務局長の土居正松氏へお願いします。

筆者のよこがお

中澤千里氏（45）

農業委員会事務局長

大正8年元旦、岡豊村笹蓮寺高の産、昭和12年3月県立農業学校卒業、同年10月東京特殊合金KK研究所へ入所、20年11月同社を退社、22年2月岡豊村農業委員会書記、37年10月市役所産業経済課事務吏員、37年12月市農業委員会事務局次長、37年〇月現職となる。

一見ブスットしたように見えて、実は人生の油に乗った、いたってきさくな人、職員はもとより、市民にもうけがよく、酔うてよく、酔わなくてよく、酔えばなおよいというよき愛酒家であり、円満家である。

家庭には静子（42）の方と、母堂晴美（62）長女玲子（18）二女誠子（13）さんの四人がある。

少年の熱球

炎天の空に飛ぶ

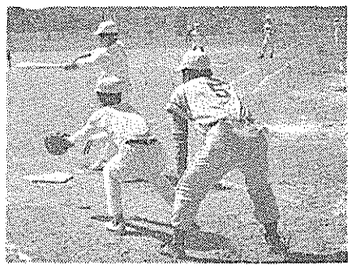
第五回をむかえた少年補導センター主催の子ども会ソフトボール大会が、夏休みも終りに近ずいた二十六日、二十五チーム二百八十人の選手の参加のもと、東工業高校グラウンドで早朝七時半からの入場式に始まり日暮どきまで熱戦が行なわれました。

少年ソフトボール大会

優勝＝青空チーム（三区）

準優勝＝暁チーム（六区）

三位＝久礼田チーム



シールは回収箱へ

少年補導センター

一日保健所を開設

＝20週年記念行事で＝

検診へ急ぐ人

ことしは、県民の保健衛生の向上のため努力している保健所の開設二十週年記念に当っています。

そこで市では保健所の記念行事に協力し、さる十日、市役所に一日保健所を開設しました。

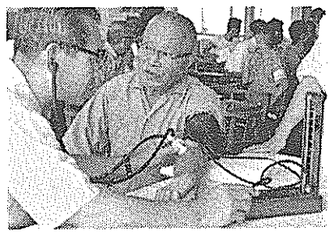
当日は市長が一日保健所長となり、保健衛生、予防、環境衛生の各一日課長に門田企画吉本総務、中沢保険衛生課長らを任[redacted]し一日環境衛生、食品衛生監視[redacted]び一日栄養士を衛生委員のなかから選らび実際に活動し、日頃の苦労をしのびました。

[redacted]一日保健所では、乳児検診と成[redacted]、栄養指導、キッチンカーによる料理の講習、胃部のレントゲン検査などで、診療開始前から受診者がつめかけ、午後四時すぎまで行なわれました。

終って、一日衛生監視員から〝環境衛生は適切な薬品と、動力による散粉機を使用したが効果があった。ぜひ各部落へ備えつけたい、できればヘリコプターの購入も考えてもらいたい〟食料品をあつかっている業者で、適切でないものがある。包装食品などは相当気を付けて取り扱ってもらいたい〟と、環境及び食品衛生監視員から報告があり、一日栄養士からは〝栄養料理の講習、は教養講座よりも女性には魅力がある。

財政が許される時代になればキッチンカーを市で購入していただきたい〟との報告と希望などがそれぞれ発表され。池川一日保健所長から、〝人生の幸せは金よりも健康である。まず、市民の健康保持に万全を期してゆきたい〟旨のことばがあって、始めてといわれた意義深い行事は無事終了しました。

なお、当日一日保健所を利用した人たちは、成人検診一八九人（血圧測定一八九件、検尿一八九件、心電図三一件）胃レントゲン八〇人、乳児検診七一人、栄養指導七〇人、栄養講習八〇人、計、四九〇人（七二〇件）に及びました。



＝成人検診＝　血圧測定

キッチンカーで料理の講習をする一日栄養士

栄養指導を受けるおとしよりと母親

心電図による成人検診

人事異動

評価室を縮少

市では、評価室の機構の縮少にともない、このほど一部職員の配置替えを行ないました。

異動のあったものはつぎのとおりです。

〔係長〕

産業経済課＝農業構造改善係長岡林泰弘（評価室　家屋係長）

評価室＝評価係長、土居義夫（同土地係長）

〔主事〕

福祉事務所、西山智子（評価室）、税務課、竹崎栞、猪野正義、川添寿仁（同）厚生課、岡崎総一（同）、選挙管理委員会山本伊佐子（同）